

# 三重県護国神社奉賛会報

第八十四号



## 明治天皇御製(明治四十年)

めにみえぬかみの心に通ふこそ

ひとの心のまことなりけれ

### 奉賛会総会 10月30日(水)午後2時開催

―平成二十五年―  
 三重県護国神社奉賛会  
**『総会』開催のご案内**

会員各位のご協力・ご奉賛をいただきまして、平成二十四年度も恙なく終了できましたこと、心より御礼申し上げます。

平成二十五年九月一日より新年度に入りました。

つきましては、左記により

「平成二十五年」(平成二十五年九月一日～翌年八月三十一日迄)の総会を開催致しますので、多数ご参加くださいますよう、ご案内申し上げます。

尚、会員各位には、返信葉書を同封させていただきましたので、来る十月二十日までに、出欠の有無をお知らせくださいますよう、お願いいたします。

#### 記

- 一、開催日 平成二十五年十月三十日
- 一、場所 三重県護国神社
- 一、時間 午後一時～

「受付」 参集殿  
 午後二時～

「英霊遺徳顕彰祭」 拜殿  
 午後二時三十分～

「総会」 南参集室

#### 会費納入のお願い

新年度『平成二十五年』(平成二十五年九月一日～翌年八月三十一日迄)に入りましたので、新年度会費を納入いただきますようお願い申し上げます。

尚、納入の際は奉賛会専用の振込用紙をご利用下さい。

※送金手数料は奉賛会で負担いたします。

年度会費 正会員 二千元  
 特別会員 一万元

#### 奉賛会入会のご案内

奉賛会は護国神社の御英霊を恒久的に奉慰奉賛していく事を目的とし結成され、多くの方々よりご賛同を賜って参りましたが、会員数が年々減少しているのが現状です。

そこで、一般有志の方の入会を進め、会員の増加を図りたく、会員よりのご紹介を宜しくお願い申し上げます。

入会ご希望の方は直接神社へお越しいただくか、奉賛会事務局までお知らせ下さい。

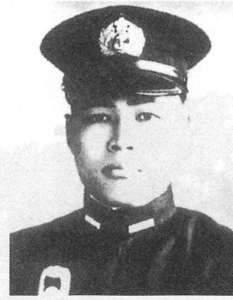
三重県護国神社内 奉賛会事務局

TEL 〇五九―二二六―二五五九

— 英霊の言乃葉 —

### 軍服を脱いで行きます

海軍大尉 旗生 良景 命



神風特別攻撃隊八幡神忠隊  
昭和二十年四月二十八日  
南西諸島にて戦死

京都帝國大学卒

海軍第十四期飛行科予備学生  
福岡県出身 二十二歳

四月十六日

今日は未だ生きてをります。昨日、父さん、母さん、兄姉にも見送つて頂き、全く清らかな気持ちで出発できました。

敏子にお逢いになった由、皆何を感じられたか知りませんが、心から私が愛した、たつた一人の可愛い女性です。純な人です。私の一部と思つて何時までも交際して下さい。葬儀には是非呼んで下さい。

お父様、お母様。本当に優しく心から私を可愛がつて頂きましたこと有難く御礼申します。私は一足先に死んでゆきますが、私が、あの弱かつた私が國に殉ずることを喜んで下さると思ひます。長い間御世話になり何一つ喜んで頂く様なことも致しませぬ相済まぬと思つて居ります。私の死はせめてもの恩返しと思つて下さい。

四月十七日

今日も生きてゐます。皆に逢へて安心です。心に残るは敏子のことのみ。弱い心をお笑ひ下さい。然し死を前にして、敏子に対する気持の深さを今更の様に驚いてゐます。人間の真心の尊さを思つて下さい。

四月十八日

軍服を脱いで行きます。真新しいのが行李の中にありますから、それを家に、古い方を敏子に送つて下さい。必ずお願ひします。

戦死がわかりましたら一度家に呼んで遺書等と一緒にお渡しになれば良いと思ひます。

【平成五年十二月靖國神社社頭掲示】

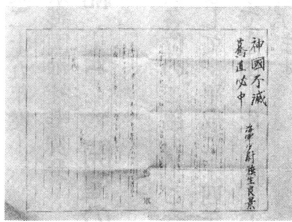
英霊の言乃葉(7)より転載

### 【解説】

昭和二十年四月二十八日、神風特別攻撃隊「八幡神忠隊」隊員として「九七式艦上攻撃機」に搭乗、串良基地を出撃、南西諸島洋上にて戦死。春ようやく更け初夏の迫るを覚える頃、九州南端串良基地は連日敵機の銃爆撃を受け、束の間の平和の夢を破られる。

その間隙を縫って、出撃までの猛訓練を続ける旗生少尉は遺書も何も遺していなかったことに気付き、四月十六日から二十四日まで日記風に来し方、行く末の心情を書き遺した。その中では、二度にわたり愛する人への思いの深さを吐露、さらに、ご遺書となった日記では、敏子さんへの形見分けの依頼までしている。現世における深き愛、この一途な思いは死後もなお彼女を見守ろうとする心であり、これぞ真実の愛と言えよう。

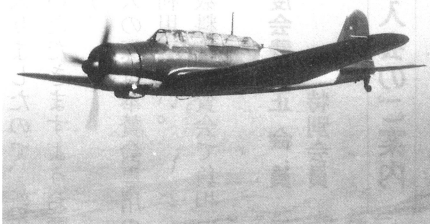
【いざさらば我はみくにの山桜より転載】



最後の日記

### 【九七式艦上攻撃機】

旗生大尉の搭乗した「九七式艦上攻撃機」は、日本海軍最初の低翼単葉引込脚式の全金属製艦上攻撃機で、昭和十四年から戦列に加わったが、世界の艦攻の先端を行く斬新な機体であった。昭和十二年十一月十六日に制式採用された九七式一号艦上攻撃機と十四年十二月十六日に制式採用された九七式三号艦上攻撃機のほか練習機型の九七式練習用攻撃機もあり、一二五〇機以上生産された。搭載力と航続性・安定性に極めて優れ、八〇〇キロ魚雷の雷撃と八〇〇キロ爆弾による水平攻撃で大活躍した。



九七式艦上攻撃機

### 【参考】

・「陸海軍航空隊

— 大空を疾駆した無敵の銀翼 —